夢と絆

２０１７年5月２１日

講師　蓮池薫氏
新潟産業大学准教授
於；袖ヶ浦市民会館

プロフィール

・1957 年生まれ
・中央大学 3 年生の時に拉致され、24 年間異国の地の北朝鮮に居た。
・帰国後 1 年後に中央大学に復学。新潟産業大学に勤める。
（現，同大学准教授）

蓮池薫

生年月日：1957年9月29日 (61歳)

蓮池 薫は、日本の翻訳家。新潟県柏崎市出身。1978年から2002年まで北朝鮮による日本人拉致問題の被害者として、北朝鮮で生活。新潟県立柏崎高等学校を経て、中央大学法学部卒業、新潟大学大学院修了、文学修士。新潟産業大学経済学部准教授。 Wikipedia

今日のテーマ

・帰国後 15 年になるが、拉致されたままの人達の親は 90 歳を超えている。
夢と絆が奪われたままである。
・このご時世、拉致問題はどうなってしまうのか？
・拉致とはどのようなものか？
・拉致の目的は？

・拉致された時の状況
・向こうで何をさせられたか
・日本に帰れるとは思わなかったが国際情勢の変化により、状況が変わった
・彼らの目的は？
・交渉は？
・拉致された人数すらわからない

概要

帰国できたのは、北朝鮮が日本との関係改善をして、賠償金が欲しかったからである。5 人が帰国したが、残る 8 人は死亡したと言われた。死亡したというのはとんでもない話である。

3 年前にストックホルムで合意した時には 30 数人が帰国できると期待したが、調査後の報告書では‘残りの 8 人は死亡した。’と同じ説明だった。最初からそのつもりだったのだろう。1993 年に自殺したとされる女性も家内が

1994 年に一緒にいた。

説明を変えない理由

・指導者のメンツ。一度言ったことを変えられない。
・秘密を知っている（しかし、その後脱北者が出て、秘密で無くなってきている）
・大きな見返りを見込んでいる。
今は見返り（お金）が主な目的になっていると思われる。
見返りがミサイルや核に繋がらないような方法、例えば電力発電等で賠償することで交渉することが考えられる。
・日本は核・ミサイルと拉致をセットで考えている。北朝鮮は核が完成した上で有利に交渉することを考えている。拉致家族は核・ミサイルと拉致問題を切り離して交渉することを望んでいる。
・被害者の生存情報を入れる必要がある。
・自分は拉致されたことにより夢と絆と自由を奪われた。2～3 か月後にやっと家族の心配をし始めた。生きていることだけでも知らせたいと思った。
・北朝鮮の祝日の報道のために中村敦夫氏が来ていた。テレビの木枯らし紋次郎が好きで良く見ていたので知っていた。思わず、駆け寄って助けを求めようと言う気持ちが湧いたが、思い留まった。

北朝鮮による日本人拉致問題

北朝鮮による日本人拉致問題とは、1970年代から1980年代にかけて、北朝鮮の工作員や土台人、よど号グループなどにより、17人の日本人が、日本、欧州から北朝鮮に拉致された問題である。 Wikipedia

拉致

1978 年の 6～9 月に日本、マカオ、レバノン他で拉致された。外国人のスパイ養成が目的だった。日本でも自分達、田口さん、蓮池さん、曾我さん、増本さん、市川さん等がその時である。元々は若い女性を狙ったようだ。しかし、若い女性が一人歩きをしないので、カップルを狙って、男も一緒に拉致したようだ。自分はおまけで拉致されたと冗談気味に言っている。

最初は目的が分からなかったが、後に外国人スパイの養成が目的と判った。1978 年 7 月 31 日、柏崎の海岸でデートをしていて、その時に工作員とその他 5～6 名に拉致された。最初はその辺りに人がたくさんいた場所だったが、騒がしいので、話ができるようにと、静かなところに移動した。そこに日本語の上手な工作員（その時は日本人と思った）が近づいてきて、たばこの火を貸してくれと言った。後ろから来た誰かに後ろから羽交い絞めにされ、工作員に顔を殴られた。彼女は少し離れたところで押さえつけられていた。きっとレイプされたと思い、責任を取らなければと考えていたが、その内に様子が違うと思った。沖からボートが来て、袋に入れられて、それに乗せられた。人身売買かと思った。

ボートから船に乗せられ、注射を打たれて、薬を飲まされた。注射は睡眠剤で薬は抗生物質で、殴られた顔が膿まないためだったと後で判った。

帰国までの経緯

港？（書きとれず）に着いて10日後して、平壌の招待所という名の秘密アジトに移された。工作員教育や社会主義の思想教育、それに朝鮮語の教育をされた。後に役立つかもしれないと思って、朝鮮語は覚えようと思った。1年後に奇妙なことになった。指導員が挨拶だけして帰るようになった。1年9ヶ月後に、結婚するかと言われた。その時は事情が分からなかったが帰国後に分かった。それは‘1978年8月にレバノン人の4人の女性が拉致された。日本の日立製作所を名乗った日本人らしき人が、フランス語の分かる女性を採用すると誘われ、面接のためにレバノンから飛行機に乗った。到着後に拉致されてしまった。2名はおとなしく従うことにして、スパイとして海外に出た時に逃亡のチャンスを見つけようとした。英語教育等を受けて、1年半後にユーゴスラビアで、試験的にスパイ活動をすることになった。ユーゴに到着後、すぐにフランス大使館に逃げ込んで助かった。他の2名もレバノン政府の抗議を受けて帰ることができた。’からだ。彼女たちは賢いと思う。その後、教育機関がストップした。外国人を海外でスパイさせることが出来ないことが分かってスパイにするのを諦めたのだ。平壌には各国の大使館があるので、平城から遠ざけられた。拉致した人に北朝鮮人のスパイに日本語教育をさせることに方向転換した。また、一人にしておくと危険なことを考えるかもしれないと懸念して、落ち着かせようとして、結婚を勧めた。相手がいないと言うと、‘一緒に来た彼女が相手’と言われた。それまでは、‘彼女は日本に帰した。’と言われていたので、それを信じていた。彼女も‘男は日本に帰した。’と言われていたことが、後になって分かった。直ぐに結婚を承諾した。1年後、子供を作れと言われ、すぐにできた。子供には日本語を教えなかった。自分達は在日帰国者と説明した。日本にいた親戚は皆死んだと説明した。後に子供達が帰国した時に大勢の親戚が迎えてくれて、親戚がたくさんいたことに驚いていた。

数年が過ぎて、日本語の教育をストップさせられた。後で判ったことだが、大韓航空事件で、逮捕された金賢姫が、‘拉致された田口さんから日本語教育を受けた。’と証言したためである。捕まったり脱北したスパイから、拉致された日本人情報がばれてしまうことが分かったので方向転換した。

大韓航空事件そのものは88年のソウルオリンピックを妨害するためだったと言われている。

今度は日本語を翻訳する仕事に変わった。旧ソ連の崩壊で、事情が変わった。

ソ連からの援助、バックアップが無くなってしまったのだ。中国のト・ショウヘイ総書記は韓国に近寄った。北朝鮮は韓国、アメリカ、日本との関係改善に

梶を切った。韓国の太陽政策で膨大な資金を手に入れた。日本にも同様の期待をした。（金丸信自民党元幹事長と田辺社会党元委員長が北朝鮮を訪問し,国交の正常化を約束した。賠償金と称して莫大な援助をした。夜に女性が部屋に送り込まれ、その秘め事を撮影され、それをネタに脅迫されたとのうわさがある。賠償が唐突だったし、その後、小泉首相他は訪問しても日帰りにしているので、本当だろう。）

北朝鮮で‘キュウポラのある町’とかの日本映画が上映されるようになった。日本から、拉致問題の解決を迫ったので、その後、交渉が途絶えてしまった。

4～5 年後、北朝鮮で大飢饉が発生。
国を立て直すため、韓国との関係改善を図った。

2001 年に日本との関係改善。
2002 年 3 月、行方不明者を探すと日本に伝えた。
自分達は小さな住宅に引っ越した。（日本の調査団が来るので）
そして、拉致ではなく，‘漂流していたところを助けられた’との嘘の説明を何度も練習させられた。

9 月に小泉首相が来たが、その時に金正日書記長が拉致を認めてしまった。‘自分は知らなかったが先代の金日成がやった。’ということにしてしまった。子供を人質として残して、日本に行けと言われた。
日本で、兄に‘このまま残れ’と言われ、大喧嘩になった。母親が‘25 年振りに会って、兄弟喧嘩するなら、ホテルから飛び降りて死んでやる。’と騒いで大変だった。その後、柏崎に帰って、やはり日本はいいなと思い始め、このまま日本に残る決心をした。最後のチャンスだと思った。家内は大反対だったので、説得し、残ることにした。1 年後に子供達も帰国した。

最後に

残された人達は帰国した人達とは条件が違う。既に日本に帰国した人達のことを知っている。皆、‘残された自分達が死んでしまったことになっている。’ことも知っている。どんなに不安か？帰国を北朝鮮に働きかけ続けることが重要である。拉致被害者の帰国のために皆さまの協力をお願いします。
（時系列は多少あいまい）
以上